

令和6年1月1日

第52号

早稲田大学

武蔵野稲門会報



WASEDA BEAR
©2000 WASEDA UNIVERSITY

発行 武蔵野稲門会

〒180-0022

武蔵野市境5-14-14-S-516

デライトシティ

諸江 昭雄

TEL 0422(55)8060



井之頭弁財天
撮影=山下倫一(1971・商)

あけましておめでとうございます 武蔵野稲門会会長 諸江 昭雄(1963・法)

もろえ あきお

武蔵野稲門会のみなさま、あけましておめでとうございます。お変わりはございませんでしょうか。当会役員を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

令和5年はここ数年日常生活を不安なものにしていたコロナウイルス感染が「ウイズ・コロナ政策」の浸透により落ち着きを見せ、稲門会活動も新年会・総会の対面式開催を復活することができました。更にコロナ禍により見送っていた稲門祭・ホームカミングデイ式典も再開され、学園に活気と卒業生の笑顔が戻ってきました。この号の出る頃には早稲田スポーツの結果も出ていると思います。

新年会は1月20日(土)武蔵野スイングホール11階・レインボーサロンにて開催します。旧友と語り、新会員を歓迎し、早稲田大学の絆を確かめ合う新たな門出をみなさまと共に祝いたいと念じています。 感謝合掌

令和6年(2024年)武蔵野稲門会 新年会のお知らせ

記

下記の通り開催いたします。

日時 令和6年(2024年)1月20日(土) 14:00~16:20 (受付 13:30)

会場 武蔵野スイングホール(JR武蔵境駅北口駅前)11階
レインボーサロン ヴァイオリン演奏のアトラクションをお楽しみください。

会費 5,000円(当日、会場でお支払いください)

詳細は同封の別紙「新年会のご案内」をご覧ください。

臨時総会を開催いたします。

開催日時: 2024年3月30日(土曜日) 14時~16時(予定)

会場: 武蔵野公会堂(吉祥寺駅公園口から徒歩3分)

詳細は同封のハガキをご覧ください。

同好会報告

早稲田の杜を歩く

ウォーキング会 世話人 馬場 正彦(1976・教育)

2023年10月14日(土曜日)、久しぶりのウォーキング会です。歩くのは早稲田大学キャンパスそのものです。大隈講堂前に集合。10時半、スタート。構内に入り、最初は早稲田大学歴史館。この建物は旧1号館で覚えている人もいれば、「私の時代は教育学部だった」と思い出す人もいました。次いでモダンな外装の国際文学館(村上春樹ライブラリー)。村上文学の展示に関心を持つ人、それよりも大学の移り変わりを感じた人、いろいろでした。坪内博士記念演劇博物館は外観を眺めました。三々五々、キャンパスを談笑しながら移動、大隈重信侯銅像前でも一同記念撮影。文学部戸山キャンパスに向かいました。穴八幡前交差点の三朝庵は今はなくコンビニに変わりました。早稲田スポーツミュージアム。ここは文学部中庭の体育館で覚えている参加者が多かったです。体育館は地上から、地下に移りました。3階のミュージアム展示場で早稲田スポーツの歴史を拝観しました。

ここで一旦解散。正門前通りのネパール料理店で懇親会です。全員、声を揃えて、乾杯!の歓声を一斉に挙げました。キャンパス、建物・施設、周辺の景観も、時代とともに変わりました。「集り散じて 人は変れど」、変わらないのは、30代から80代まで「仰ぐは同じき」母校への想いです。それぞれの早稲田談義で大いに賑わいました。秋晴れの好天下、「心のふるさと」に、ひととき帰る一日となりました。

(鈴木康之 記)

色々な方々に協力して頂きました。ご支援、ご助言をいただき、有難うございました。感謝、感謝です。

(馬場正彦 記)

参加者(敬称略) 諸江昭雄、太田資暁、中山美代子、杉原鐵夫、松本誠、佐川素子、徳田直子、片岡冬里、小野沢純一、田坂忠俊、大島正敬、谷岡毅、鈴木康之、谷中竜雄、河谷洋祐、馬場正彦。16名。



川柳稲穂会、負けていません

おおた すけあき 太田 資暁(1965・商学部)

現在私はポプラ社出版の「シルバー川柳・誕生日ロソク吹いて立ちくらみ」という本を読んでいます。老人の面白い句が沢山載っております。目についた句をちょっとご紹介しますと、「紙とペン探してる間に句を忘れ」、「名が出ないあれこれそれで用を足す」、「手をつなぐ昔はデート今介護」、「なあお前はいてるパンツ俺のだが」等愉快な句が沢山載っております。

一方我々川柳稲穂会も負けてはおりません。去る8月29日の会の雰囲気を紹介すると、星田先輩が「好きだったのよ 同窓会の夏の恋」と投句されましたが、皆思わず星田さんの方を見たものです。市川先輩が「摩訶不思議虚言見捨てぬ共和党」と悲憤慷慨されましたが、これを元に意見が飛び交い日本の政治に関しても厳しい指摘が相次ぎました。また小坂先輩が「チコちゃんに80足して誕生日」という句を発表されましたが、このように個人を詠んだ句も多くあります。特に家庭内の、中でも奥さんとの枯れたやり取りや強がり(?)の句が目立ちます。まだまだ名句や迷句がありますが紙面の関係で割愛します。

我々はこれらの句を詠みながら関連する話題で盛り上がり、皆さんの経験豊かな情報や思い出が次から次に出て来てまことに楽しい時間を過ごしています。政治経済はもちろんのこと吉祥寺の店とか散歩の話題、それから早稲田の情報等々普段聞けない話が次から次へと出てきます。これも同じ稲門で同じ地域に住んでいるからです。句を作ることと会話をすることはボケ防止に役立つそうですから、これからも大いに語って楽しい時間を過ごしたいと思っております。



お悔やみ申し上げます。

- 石川洋一さん (1957・政経) 2022年8月
- 須田晃也さん (1970・教育) 2023年2月
- 林望さん (1951・法) 2023年2月
- 高橋清さん (1956・教育) 2023年7月
- 秋本光雄さん (1956・文) 2023年10月

★ 公園通り法律事務所

弁護士 酒井 圭 (2004年 商学部卒)

弁護士 酒井 幸 (1971年 法学部卒)

〒107-0052 (移転しました)

東京都港区赤坂4-9-3 赤坂吉田ビル2階

TEL 03-6804-6083 FAX 03-5411-3808

e-mail info@kouendori.com

HP <http://www.kouendori.com/> ブログ <http://kouendori.jugem.jp/>

食事とお酒

カヤシマ

佐藤 孝一 (1981年商学部卒)

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-10-9

吉祥寺エクセルホテル東急前

Tel 0422-21-6461

<http://www.e-kayashima.com>

「写真でたどる吉祥寺」から

すずき いくお
鈴木 育男 (1954・文)

去年、平成5年(2023)の5月13日から7月13日にかけて、武蔵野市立ふるさと歴史館で、鈴木育男写真展「写真でたどる吉祥寺」が開催され、昭和時代の吉祥寺の街並みの写真が数十点展示されました。ご覧になった方々から好評で、大手新聞2紙にも大きく紹介されました。

武蔵野市の歴史を正確に記録保存しておこうと言う歴史館の使命に、私の撮影した昔の写真がお役に立った写真展でした。

早大を卒業したあと、父の写真館を継ぐべく写真専門学校に2年間通いました。その課題で「街の撮影」があり、昭和30年頃の街の様子を撮り始めました。

戦後の復興時代は変化が目覚しく地元吉祥寺はもちろんですが吉祥寺以外の東京各地もフィルムに残しました。

卒業後も街や街の人を写すのが面白く、吉祥寺駅前のハモニカ横丁や、伊勢丹や東急、パルコなどが出来る前後過程なども、本来の仕事であるスタジオ撮影の合間に撮っておきました。

誰かに頼まれて写しているのではないので収入はゼロです。

4歳のとき吉祥寺に来ましたので、遊び場のメインは井の頭公園です。蝉をとったりエビをすくったり、木登りをしたり、神田川でアカハライモリを釣って驚愕したこともあります。水が澄んでいましたから清流にしかいない小生物がたくさんいました。公園は面白く驚きと発見の場所でした。

昭和30年頃の吉祥寺商店街は、木造2階建が多く、一階が店で二階が住居でした。いわゆる隣組で隣近所は仲が良くご飯の貸し借りをしたこともありました。ビル化した現在は、隣がどんな人がいるのか口を聞いたこともなく知らない人ばかりとなって世の中が乾燥状態になっているように感じます。



「吉祥寺にあったという証拠」



公園通り「井之頭踏切」ぎわの大きな柳の木の下に、高さ約2メートルの石造りの「道しるべ」がひっそりと立っていた。その石碑の表面には「井之頭辨財天」と筆太の文字が彫られている。また側面には「これよりみち」と大書され、天明五年(1785)とある。江戸時代、井之頭辨財天に参詣するため、遠方から徒歩できた善男善女が道に迷わないようにと建てられた道しるべである。

道しるべは現在、武蔵野八幡宮境内に設置されているが、天明五年の建立当初は八幡宮の斜向かいにあったという。それが大正末期、五日市街道拡幅のため、公園通りの踏切際に移設された。しかし、昭和42年(1967)ごろ国鉄高架線化、井之頭通り整備のため、再び移動、小金井公園内に置かれ、東京都の管理下にあった。それを平成19年(2007)9月武蔵野八幡宮の氏子安藤亨さんら有志の熱意と尽力によってとり戻したという曰くがある。返還交渉では都側から「吉祥寺にあったという証拠がほしい」と言われ、私のこの写真(左側)が決め手になったと聞いた。

あちらこちらに移されて変遷をたどった道しるべは、ようやく安住の地を得ることが出来たと言える。(鈴木育男写真集『うつりゆく吉祥寺』より転載)

街並みのうつり行きから



昭和36 (1961) 年 現パルコ前から吉祥寺駅方面へ向かう平和通り。左のタクシーはシボレー。中央には、軽三輪トラックのダイハツ・ミゼットが走る。



昭和40 (1965) 年 吉祥寺通り井之頭踏切の側。線路はまだ高架化されていなかった。「公園通り踏切」「開かずの踏切」と市民から呼ばれていた。



平成6 (1994) 年 公園通りと中道通りの交差点。



昭和39 (1964) 年 武蔵野商工会議所屋上からみた吉祥寺名店会館。屋上は遊園地だった。純喫茶古城の尖塔、旧弁天湯の煙突が見える。吉祥寺名店会館は、東急百貨店に建て替えられた。

市民の暮らしから



昭和32(1957)年 ハモニカ横丁。赤ちょうちんの店が軒を連ねていた。



昭和37年(1962) 吉祥寺駅北口の賑わい。

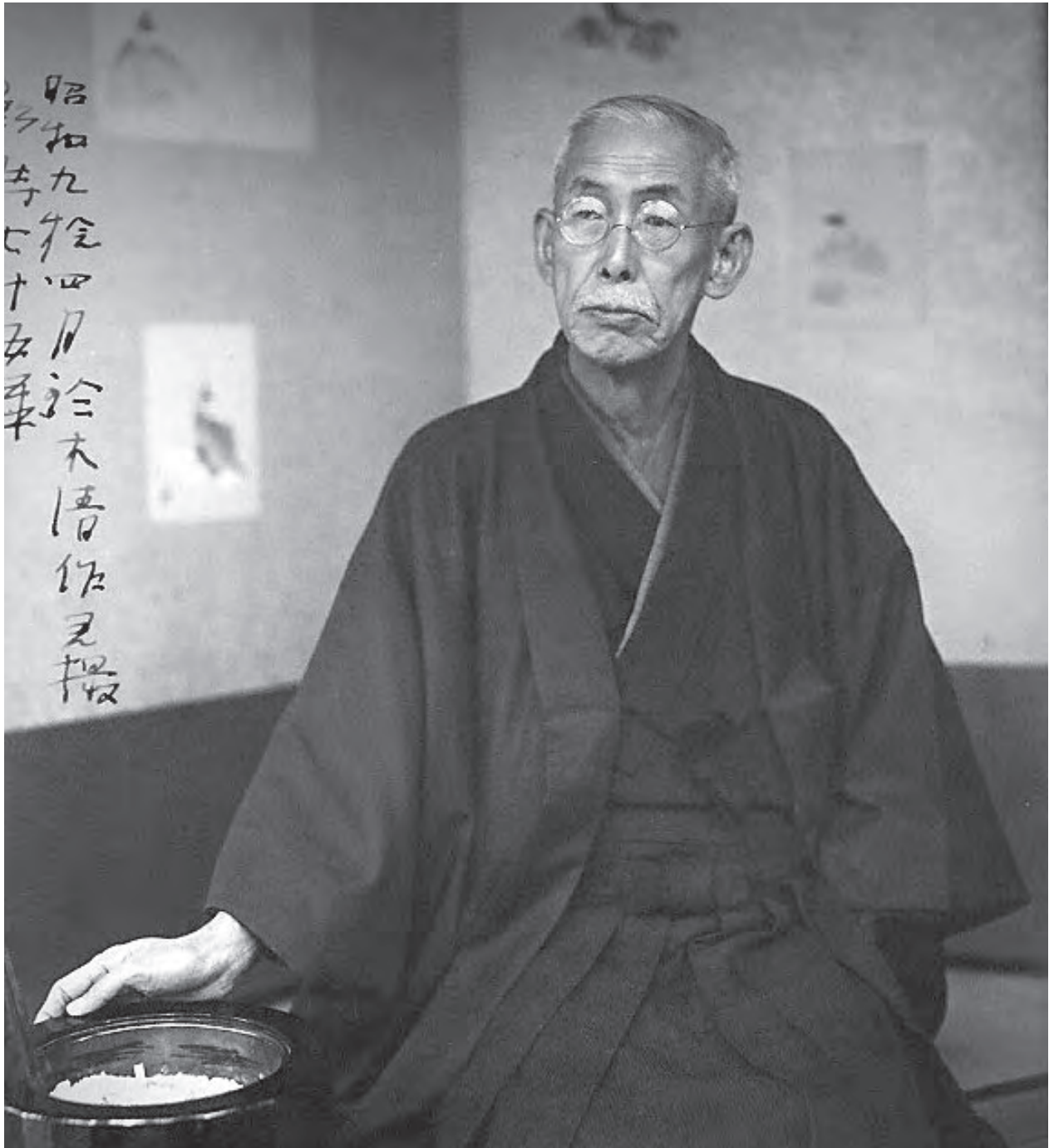


昭和60(1985)年 平和通りにあった鶏卵専門店。



井之頭公園にプールがあった。水温が冷たく、すぐに唇が紫色になった。写真は幼児用のプール。

鈴木清作の撮影写真から



鈴木清作 1893-1964年。写真家。横浜で写真を学ぶ。1914年渡米。1921年、ニューヨークで、中山岩太と「らかんスタジオ」創業。滞米時代、鈴木らかん名で、各地サロンへ作品を出品した。1930年、帰国。1935年、吉祥寺で「らかんスタジオ」開業。鈴木育男氏の父君。

高田早苗 昭和9年(1934)。(上) 1860-1938年。1882年、大隈重信の下で東京専門学校創立に参画。創設時から講師として教鞭を執りながら、学苑運営を担った。大正12年(1923)から昭和6年(1931)まで早稲田大学総長を務めた。

野口英世 昭和2年(1927)。(左)

新会員自己紹介

光陰矢の如し

つかがわ としお
塚川 利雄 (1974・理工院)

早稲田大学高等学院から1974年理工学部大学院修了迄の青春十年を早稲田で過ごしました。卒後国内各地を転勤、単身赴任含め、市内御殿山在住三十数年です。付属高だったので、神宮球場の早慶戦応援が体育科目で、土曜学業(試合)後、新宿歌舞伎町を学友と回遊した思い出があります。



大学院で高速ディーゼルエンジンを学び、欧州発百数十年の歴史を持つ内燃機関が電動機に変わる目撃者として、その変遷に淋しさと新たな気運に期待する昨今です。また、ここ十年は、吉祥寺西コミセンで地元活動しており、皆様にお目にかかる事もあろうかと思えます。

武蔵野市在住半世紀・米寿記念入会

べっふ ゆうこう
別府 祐弘 (1960・政経)

令和二年春の叙勲で天皇陛下より、教育研究功績に対し瑞宝中綬章を下賜されました。誠に恐れ多いことですが、その調書の一部を借用して自己紹介に代えさせていただきます。宜しくお願ひします。



「別府氏は、資本市場における企業価値の持続的最大化目的の経営(経済)学(=近代的財務管理論)の分野の戦後の我が国におけるパイオニアとして無数の独創的・開拓者の貢献をただけでなく、これをさらに管理的行動理論の枠組みによるグローバル企業の広範囲にわたる実証研究へと展開し具体化させたことは類例のない研究成果として国際的に高く評価されている。教育面での貢献と武蔵野市市政功労賞2回受賞の社会貢献もまた大きかった。」



楽しい時間が過ぎせましたら。

たかはし ともか
高橋 智香 (2020・政経)

この度、若輩ながら稲門会に参加させていただきました。2020年、コロナ禍のさなかに大学を卒業しまして、現在都内のメディア企業に編集者として勤務しています。早稲田で過ごした4年間、体力の続く限り、色々な場所を駆け回った経験が、今の私をかたどっていると感じる日々です。少々、お酒を飲みすぎた気もしますけれど(笑)。



ありがたいことに、2023年は、武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会の公募委員としても活動の機会をいただいております。早稲田に、武蔵野に、少しでも恩返しができるかと考えています。皆様とご一緒できますこと、楽しみにしております。

「ようやく武蔵野市に戻ってきました」

なかやま けんいち
山中 賢一 (1975・政経)

2002年3月武蔵野市に念願の家を建てた矢先にジंकス通り翌月には中国駐在となり、その後21年間に亘り国内外で単身赴任生活を続けてきましたが、漸くこの8月末に戻ってまいりました。過去、赴任先の福岡、北京、名古屋、岡崎で稲門会に入っていましたので、ためらうことなく本会への入会を申し込みました。



今までもホームカミングデイには招待年次ではなくても毎年駐在先から駆け付け、同窓の友人らと早稲田界限で氣勢を上げていました。しかし早慶戦やラグビー応援には行けていないのを残念に思っていました。

本会でも皆様のご指導の下、歴史ある武蔵野稲門会の一員として活動をしていきたいと思っております。宜しくお願ひします。

お客様の一生の思い出づくりをサポート!

東京 武蔵境 教習所
東京都公安委員会指定

運転免許から各種講習、車の購入までお任せください
ケータイ対応 イコー ム サ シ サイ

0120-15-6343

虎ノ門カレッジ法律事務所
弁護士 福原 弘
(1969年法学部卒。東京弁護士会所属)

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1丁目1番23号 虎ノ門東宝ビル3階
TEL 03(3597)5755 FAX 03(3597)5770

川柳「稲穂会」(二〇二三年八月二十九日)

「兼題」(恋)

週刊誌 色恋だけで 銭になり
「自由句」 太田資暁

連戦を避けて間遠な 甲子園 市川 毅
長髪が坊主を凌駕甲子園 森川紀一
少年の 女神輿に 懸ける水 諸江昭旦
阿波踊り 赤いけだしに 胸躍り 星田正風
四つん這い 爺見て笑う孫と婆 片岡冬里
マウイ火事 ハワイ航路が 泣いている 太田資暁
チコちゃんに 八十足して 誕生日 小坂 強
理事長もマツチヨ体質に眼が眩む 田坂忠俊

俳句「稲穂会」(二〇二三年十月十八日)

釣瓶落し山城ぼつと残さるる 房子(轟 房子)
崖つ縁まで来て紅葉の女滝 幸子(中村幸子)
長き夜や夢と現の繰り返し つよし(市川毅)
秋深み行く羊羹もせんべいも 麟太(川崎大八)
鉄柵の錆びたる屁糞葛かな 宏治(池田宏治)
知らぬ間に白髪増えたる寒露かな 秋雲(川島隆慶)
妖精に案内を乞う秋の森 秀至(中島秀至)
路地裏の七輪煙る秋刀魚焼き 利雄(塚川利雄)
真つ赤な雄の種的主張秋あかね 正風(星田正)
赤とんぼがんばれ

同好会/世話人

○囲碁(イナゴ)会

毎週金曜
市内コミセン
片岡冬里 090-9640-7202

○ウォーキング会

馬場正彦 080-5937-2767

○温泉と景観を楽しむ会

年2回程度(1泊2日)
中山美代子 0422-22-8862
徳田直子 0422-43-2773

○カラオケ部会

(休会)

○クラシック音楽同好会

年1回コンサートを開催
山本富士雄 090-5194-3086
小坂 強 080-5373-2955

○ゴルフ(平野杯)部会

年2回(春・秋)
堀 裕一 090-3212-0052
大石 仁 080-5170-4122

○三水会

毎月第3水曜日 18時～
諸江昭雄 080-1060-7291
谷内隆衛 080-6814-1868
谷中竜雄 090-9822-7140

○シネマ倶楽部

杉原鉄夫 090-2675-9391

○写真同好会

山下倫一 090-2626-2935
宮崎幸二 090-9005-8203

○テニス部会

月2～3回
池田宏治 090-5771-8821
吉井 滋 090-6478-3246
谷岡 聡 080-2081-9702

○日本酒同好会

北原 譲 080-5536-4390
谷中竜雄 090-9822-7140

○俳句・川柳の会

俳句「稲穂会」: 偶数月第3水曜日
13:30-15:00
本町コミセン(原則)

星田 正 0422-53-5436

川柳「稲穂会」: 4ヶ月毎
太田資暁 0422-20-1705

○マーじゃん部会

偶数月の第2日曜日
松本 誠 090-3204-4355
牛込秀三 080-1349-1009

○もっと早稲田を応援する会

箱根駅伝、レガッタ、野球、
ラグビー、など
諸江昭雄 080-1060-7291
川崎大八 090-6305-3275

各同好会の活動については、武蔵野稲門会ホームページをご覧ください。

<http://musashino-toumon.info/information.html>

編集後記

明けましておめでとうございます。今号から、8頁の会報をお届けいたします。ご支援のほど
よろしくお願いたします。国内・国外とも、時代が大きく変わって来ております。
本年も会員皆様のご多幸をお祈りいたします。(鈴木康之)

堀 法律事務所

弁護士 堀 裕一

(1980年法学部卒。第二東京弁護士会所属)

弁護士7名在籍。医学博士やマンション管理士でもある弁護士もおります

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-23 虎ノ門東宝ビル 6F・7F
TEL(代表) 03-6206-1022 FAX 03-3500-1013

家族葬専門葬儀社

のもと祭典

代表 野本 好朗 (2011年文学部卒業)

三鷹本社 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀7-6-29-103

武蔵野支店 〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-25-7-104

TEL 0422-57-7876 (24時間365日受付)

FAX 0422-57-6078

のもと祭典

検索